

2 主体性

視点③ きっかけになる子どもからの言動

幼児教育で重要な「主体性」。その要になるのは「子どもから生じるきっかけ」です。興味の対象に関わるきっかけ、言動を起こすきっかけなど、子どもから出てきた「きっかけ」を視点にしている以下の事例から、主体性を育む保育の手がかりを得ることができます。

「畑を作りたい」 5歳児

出雲市立塩冶幼稚園

5歳児の砂場の支柱に亀裂が生じた問題を、保育者が子どもたちと共有する。砂場での遊びができなくなるという事態に、子どもたちは「畑を作りたい！！」と自分たちの思いを言う。土作りをして耕し、草取りをして畑にする。

子どもたちからの要望がきっかけ

「ピーマンやナスは少し離して植えないと駄目だよ」
「カボチャやスイカはどんどん伸びるから、くっ付けて植えたら、たしかいけないよ」
など、自分が見たり聞いたりしたことを自分たちの畑作りに結び付けて考え、思い思いに栽培を始める。



思った所に植えて、毎日水遣りをしたり、草取りをしたりして世話をする。思い思いに考えて植えたり育てたりしているが、共有している場所なので、「互いの植えた所が分からないと困る」という問題を感じる。

子ども自身が困ったことがきっかけ

「ねー、そこを踏んだら駄目だよ」
「どこに植えたのか分からない！」
「今度、どこに植えたらいいのか分からないよ」

互いに困っていることが分かり、「何かあるといいよね」「野菜の名前が分かるといいね」とやりとりが始まる。保育者は「そうだよね。何か分かる物があると踏んだりしないし、見てすぐに何の野菜か分かるね。何がいいかな？」と、子どもが気付いていることを手がかりにして問題の解消に取り組めるように、助言をして見守る。「そうだ！看板があるといいね」「そうそう！」「外だから、雨に濡れても大丈夫な物じゃないと駄目だよ」と言い、自分たちで看板作りをする。



以上の実践は、子どもたちが主体的に活動を始め、問題を乗り越えている栽培活動なので、この後も栽培物や栽培の仕方への興味や探求を深め、意欲的に栽培物に関わっていきました。（関連事例P.15）
保育者が「生じた問題を、子どもたちと共有する」「子どもが気付いていることを手がかりにして取り組めるように、助言をして見守る」という子どもに添った援助をすることにより、子どもたちに主体性が育まれています。